さがみはら生物多様性ネットワークは、生物多様性を将来にわたり保全するための取組を実施し、人と自然が共生する社会の実現を目指しています。

さがみはら生物多様性ネットワーク　ニュース

第3号
発行日
2017年3月

発行　さがみはら生物多様性ネットワーク

さがみはら生物多様性ネットワーク　会員交流会

2017年1月26日（木）に会員交流会を開催しました。

初めてとなる今回は、2016年12月にメキシコ（カンクン）にて開催された第13回生物多様性条約締約国会議（COP13）に行かれた桜美林大学の片山教授による現地での発表内容や坂田昌子さん（国連生物多様性の10年市民ネットワーク代表）からの最新リポートなどをご講演いただいたほか、会員同士のフリートークによる情報交換を行ないました。

本ネットワーク設立以来、初めて顔を合わせる会員の方もいましたが、当日は、予定していた時間が足りなくなるほど、活発な意見交換が行われました。

桜美林大学片山教授からビッグヒストリーと生物多様性についてのご講演
宇宙の誕生から現在までを生物多様性からの視点で分かりやすくお話しいただきました。また、生物多様性は「自由な表現」が可能で、自然と文化の結びつきやアートの重要性などをお話しいただきました。

坂田昌子さんからCOP13についてのご講演
COP13は、政府関係者だけでなく、様々な立場の人が参加していて、サイドイベントや記者会見の活用、ロビー活動など様々な形で決議に影響を与えることができるということなどをお話しいただき、国際会議の様子を身近に分かりやすくご報告いただきました。

※COP13については裏面のコラムで特集しています！

今年もまた、さがみはら生物多様性シンポジウムを開催しました。

2017年2月25日（土）　麻布大学

1　基調講演「生物多様性を大事にする社会の雰囲気作り」
明治大学農学部教授　倉本宣さん

生物多様性は分かりにくいけれども、市民が参加できる「簡単な調査」により体験的に生物多様性を理解することの大切さや、生物多様性の確保のための事業者の役割として千代田区の事例、またご自身の木もれびの森での調査活動などについてお話しいただきました。

2　事例発表①「家具屋さんの森づくり『道正山るーたんの森』」
株式会社家具の大正堂代表取締役社長　渋谷金隆さん

東日本大震災のボランティア活動をきっかけに創業100周年記念事業として森づくりをはじめ、地域のボランティアと連携して活動を続けていること、また斜面の土留め、遊歩道、植樹で使う杭などに、お客様から引取った不要家具を活用するなど家具屋さんならではの森づくりをご紹介いただきました。100年後の未来に森を提供することを願って活動を続けています。

3　事例発表②「多様な主体の連携と水源地の生物多様性」
あざおね社中会長/麻布大学生命・環境科学部講師　村山史世さん

緑区青根地区にて麻布大学の学生・教員と地域住民による休耕田の復活と、そこを拠点とした生物多様性の把握などの活動を通して、人口減少社会における地域の持続可能性や、「ヨソモノ」が関わることによる様々な成果や事例をご紹介いただきました。

4　トークセッション

最後に発表者によるトークセッションを行いました。参加者からはカヤネズミの生態についての質問や、大径木となった森の管理についての質問が出され、活動していくことの楽しさや生きものの話題で盛り上がりました。

（左から）倉本教授、渋谷代表取締役社長、村山会長

コラム　第13回生物多様性条約締約国会議（COP13）の概要

2016年12月4日（日）～17日（土）に生物多様性条約第13回締約国会議（COP13）がメキシコ・カンクンで開催されました。COP13では「各種セクターへの生物多様性の保全及び持続可能な利用の組み込み」が主要なテーマとなり、特に**農林水産業や観光業における「生物多様性の主流化」**が焦点となりました。

今回のCOP13には、締約国・地域、国連環境計画など関係する国際機関、先住民代表、市民団体など3,100人以上が参加しました。また、会期中、300以上のサイドイベントが開催され、日本からは環境省が「国連生物多様性の10年の日」などのイベントやブース展示を主催するなど日本の取組を紹介していました。

主な成果や議論となったこと（抜粋）

締約国に、あらゆるレベルでの農林水産業、観光業といったセクターへの生物多様性主流化の取組の強化を求めました。

【気候変動と生物多様性】

気候変動への国別貢献（パリ協定）での生物多様性の考慮

【生物多様性と健康】

都市環境における生物多様性が、都市住民の健康に大きな影響を与えていることを追加

【農業分野】

非持続的な農業慣行が多く存在することの認識を持ち、生物多様性保全型農業に奨励措置を活用することや、多様な農業の推進などを奨励

【観光業】

地域社会を基盤とした持続可能な観光は生物多様性の保全、利用、地域社会の状況改善・雇用を生み出す可能性がある一方で、多くの非持続的な観光が生物多様性に重大な影響をもたらしうることを共通認識する

COP13に参加された坂田昌子さんからのコメント

今回のCOPでは、世界で問題となっている合成生物学や地球工学など新たな議題をめぐって様々な駆け引きがありました。

生物多様性条約COPは政府だけでなく、自治体や市民社会から多様な人の参加が可能な会議です。国連もメジャーグループ（先住民、NGO、労働組合、農民、科学者、企業、ジェンダー、ユース、自治体の9つ）と呼ばれる人々の意見を反映することになっています。

誰もが参加でき、様々な課題について情報を得たり、条約の決議に影響を与えたりすることができるので、次回エジプトで開催されるCOPでは、相模原市をはじめ、たくさんの人が参加できるといいなと思います。

生物多様性条約締約国会議（CBD/COP）とは？

生物多様性条約は1992年にブラジル・リオデジャネイロで開催された**「環境と開発のための国際会議（地球サミット）」**で各国に条約への参加が呼びかけられました。現在197の国と地域が参加しています。

生物多様性条約は①生物多様性の保全、②生物資源の持続可能な利用、③遺伝資源から得られる利益の公正・衡平な配分を目的としています。

生物多様性条約締約国会議は、2年に一回開催され、世界中から人々が集まり議論し、様々な決議や文書の採択を行います。

2010年（平成22年）のCOP10は、愛知県名古屋市にて開催され、生物多様性に関する新たな世界目標である**「戦略計画2011-2020（愛知目標）」**や、**「遺伝子資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公平かつ均衡な配分に関する名古屋議定書」**が採択されました。

会員紹介コーナー

「小松・城北」里山をまもる会（団体会員）

緑区川尻の小松・城北地区で「後生に誇れる里山づくり」を目標として、貴重な里地里山の景観と生息する生きものを守るために活動しています。

ビオトープや川の整備、草刈り、農作物の栽培・収穫を行うほか、小学校の体験学習への協力、企業のボランティア活動の受入れ、イベントへの参加など里地里山を守ることの大切さを伝えるための活動も行っています。

問い合わせ先
相模原市水みどり環境課

会員募集中！！

「さがみはら生物多様性ネットワーク」に入会して、生物多様性の保全に一緒に取り組みませんか。

ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で、活動に積極的に参加していただける人であれば、どなたでも入会できます。

平成29年3月現在、会員数は57会員です。（個人18会員,団体28会員,事業者11会員）

年会費・・・1口　1，000円
個人会員・団体会員／1口以上
事業者会員／2口以上

さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
（相模原市水みどり環境課内）
相模原市中央区中央２－１１－１５
電　話：０４２－７６９－８２４２
Ｅメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp

入会申込書のダウンロードはこちらから↓
相模原市生物多様性ポータルサイト

生物多様性ポータルサイト　相模原市　生物多様性　検索